

新版発行にあたって

抗不整脈薬の使用法は、過去20年余りの間に多くの変遷に見舞われてきた。CAST studyによる抗不整脈薬を原因とする催不整脈作用、Sicilian Gambitによる新たな分類法の提唱・チャンネルへの作用やアップストリーム治療、カテーテルアブレーションやICDをはじめとするDeviceによる治療法の成功・発展などのため、多くの抗不整脈薬が使用の変更や制限を余儀なくされてきた。このなかにあつて、アミオダロンは不整脈治療への有効性が認識され、その使用と適用が増加、拡大した数少ない抗不整脈薬といえる。アミオダロンの抗不整脈作用については、その詳細が完全に解明されたとはいえず、なかには望ましくない副作用のため我が国での臨床使用が遅れたが、保険収載後の慎重な投与経験からその有用性が広く理解されるに至り、静脈投与法の導入、さらには制限つきながら心房細動などへの使用が認められるようになった。

日本心電学会では、学術諮問委員会の提言を受けて、不整脈に対する薬物療法の実践シリーズを毎年発行しているが、『不整脈にアミオダロンをどう使うか』はそのなかで最も好評を博す発行本である。今回の新版は、これまでの本邦におけるアミオダロンの使用経験のエビデンスを踏まえて修正を施し、さらには新しく執筆項目を加えて再編集したものである。新たな知見や使用法、実際的な使用の注意点などが網羅されており、不整脈治療にアミオダロンを使用するにあつての欠かせぬ実践書として、ベッドサイドや診療時に大いに活用していただけるものと確信している。

平成22年12月 日本心電学会学術諮問委員会

委員長 平岡昌和

有田 眞

小川 聡

山口 巖

中谷晴昭